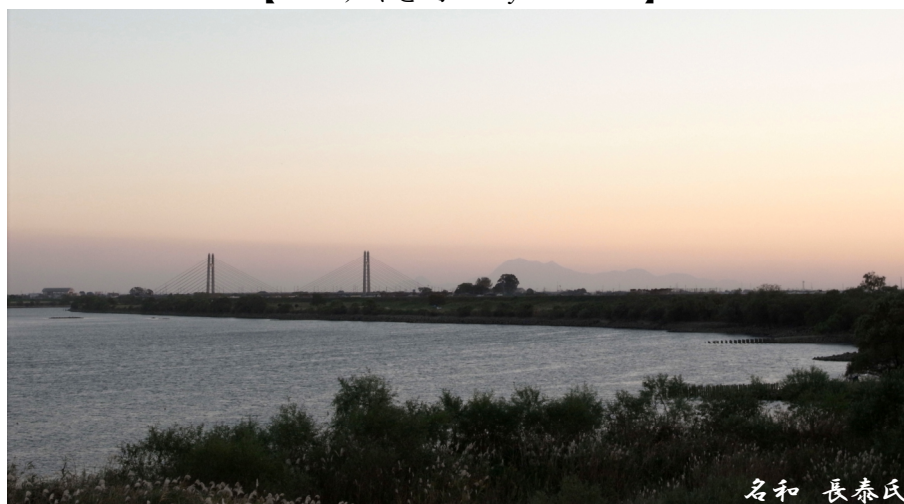


【10 みやき町 Miyaki Town】



筑後川沿いの北茂安体育館付近から(天建寺橋越しに)

みやき町では、町の南部を流れる筑後川流域をはじめ、中部にある千栗(ちりく)の丘(千栗八幡神社)や地域交流施設の“四季彩の丘みやき”、北部の風天山や鷹取山などから、筑後川流れる佐賀平野・有明海越しに“北面の雲仙岳”が眺望できます。

みやき町の町名は、旧三養基郡(鳥栖市・基山町・上峰町・みやき町のエリア)の読みにより来ますが、旧三養基郡の最高峰でシンボルとなっている“九千部山(くせんぶさん、鳥栖市内)”からも雲仙岳が眺められます。この山の名前は、平安時代に本町一帯が風水害に悩まされた際、隆信沙門という僧が九千部山の山頂に登り、法華經一万部を読み上げて風神に祈願しようとしたところ、九千部以上読み終えたところで現れた女性に誘惑され、一万部に満たずに命を落としたという伝説に由来しますが、非常によく似た伝説が雲仙岳山中にもあります。雲仙岳の山岳宗教を開いた僧・行基が一万部のお経を読む修行をした際、美しい姫に姿を変えた赤岩観音の誘惑に負け、あと一部読めなくなったという伝説で、修行の場は九千部岳(↓)と名付けられています。

風天山は、綾部八幡神社が鎮座する山ですが、町内一帯で起こった風水害を鎮静化させようとした前述の僧の徳を忍んでこの神社に風神が合祀され、風天山と呼ばれるようになったと言います。以来、ご神木に麻の旗を掲げて天気を予知することが毎年行われるようになり、日本最古の气象台とも言われていますが、ここからも雲仙岳が眺望できます。

幕末の頃、佐賀藩はロウソクの原料となるハゼの木の植栽を奨励し、三養基郡や神埼郡に苗木2.5万本を配布したとされ、本町の鷹取山には現在でも約400本のハゼの木が残り、11月中旬には紅葉して鷹取山中腹が紅く染まりますが、この山頂から眺望できる雲仙岳の山麓もハゼの木の一大植栽地でした。島原藩主の松平氏は、火山灰に強いハゼの木の植栽を進め、1792年に発生した眉山崩壊(島原大変・肥後迷惑)の復興資金もロウの販売によって調達したと言われます。

本町と福岡県久留米市の間にかかる天建寺橋は、筑後川唯一の斜張橋(斜めに張ったワイヤーで吊られた橋)で、橋の上もしくは周辺から、雲仙岳が眺められます(↑)。橋の下を流れる筑後川の水は、やがて有明海に流れ込みますが、全国一の規模を誇る有明海の干潟の泥は、かつての阿蘇山の大噴火による噴出物を筑後川や矢部川が日々流し込んでいるもので、その泥が外洋に流れ出さないのは、雲仙岳そびえる島原半島が有明海の水の出入口を狭めているためです。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、みやき町内を旅してみませんか？

●みやき町の観光情報はこちら ⇒ みやき町観光協会 <http://miyakikankou.jp/>



筑後川沿いの北茂安体育館付近から(拡大)